

教材・支援機器活用実践事例

【自分で考えて、片付ける、整列するなどの行動ができる環境設定】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	集団における自ら考えて整列しよう、片付けよう。
	単元・題材名	
	授業における子どもの目標	○ 自分でイスの片付け場所や整列場所が分かり、自ら行動することができる。
子どもについて	学級・学校・学年	幼稚園 年長
	対象の障がい	クラス全体
	授業形態	集団
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○ 集団活動場面で、整列やイスの片付けなどの場面で、言葉だけの指示だけでは、「どこに」「どのように」が伝わりにくい状況がある。少ない指示で、自分で気づいて動けるようになって欲しい。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	 「イスを片付ける場所」  「整列する場所」
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習慣化されることで、自分たちで片付けたり、整列したりすることができるようにする。 ○ 少ない指示で素早く、整列、片付けがスムーズに行えることで、メインの活動に十分に時間をとることができる。 ○ 整列、片付けにワーキングメモリ（作業記憶）を使わずにすむことで、本来やるべきことに注意を向けて覚えて活動することができる。
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児がたちが分かりやすいようにシンプルにする。 ○ 班ごとに色別にすることで、班行動が取りやすくする。 ○ 個別の支援が必要な園児には、最初は目印の意味を伝えながら、どのように行動すればいいかを教えるようにする。本人が分かって行動できるようになったら、徐々に支援を減らしていく。
子どもの変容や評価		○ イスの片付けや整列など、「片付けるよ。」「並ぶよ。」の言葉かけに、スムーズに取り組むことができるようになった。クラス全体での行動がスムーズになることで、それを見本とする園児にとっても、結果的に少ない支援で、友達の行動を見ながら自分で取り組むことができるようになった。